

1) 近畿(琵琶湖・淀川水系)で捕まえた個体

まずは、琵琶湖・淀川水系の個体です。図1に従えば、おそらく日本固有系統でよいと思います。普段の姿を(写真1)に、産卵期の雄を(写真2、3)に示します。以下ではこれらと比較しながら見た目の違いについて述べたいと思います。



▲写真1: 近畿産 | 雌



▲写真2: 近畿産 | 繁殖期の雄



▲写真3: 近畿産 | 繁殖期の雄の背面

2) 九州北部で捕まえた個体：有明海流入河川(その1)

有明海の北に広がる平野部は、クリークと呼ばれる水路が重なるように張り巡らされ、ツチフキが好みそうな、水が淀んだ泥っぽい場所が数多く存在します。その中で、何度か訪れたことがある水系で捕まえた個体を(写真4、5、6)に示します。1)で紹介した近畿産を見慣れていたため、はじめてタモ網に入った個体を手にしたときは、ものすごい違和感を覚えました。水をはった観察ケースに入れて改めて見ると、「なんだ、こりゃ!」を連呼するほど。それらは、眼が大きくて体が細く痩せているような、別の言い方をすると「飼育個体」のような感じで、近畿で捕れる比較的がっしり、コロッとした体形の個体とはずいぶん違う印象を受けました。産卵期の雄もかなり違います! 近畿で捕まえた個体と比べると下記の違いがあると思います。見比べてみてください。



▲写真4: 九州北部(その1)産 | 雌



▲写真5: 九州北部(その1)産 | 繁殖期の雄

- ・体形：体高が低くスマートで、近畿産の個体ほど猫背ではない、ずんぐりしていない
- ・体側の斑紋：明瞭な傾向
- ・体側の黒点：体側中央付近に偏り、黒点数はより少ない
- ・眼：大きい
- ・尾柄高：低い
- ・体に対するひれの大きさ：大きい
- ・背びれや尾びれの暗色帯：幅が広い
- ・産卵期の雄の胸びれ：追星が出ている棘状軟条が長く、先端部は尖る

眼が大きくて背が低くスマートな感じは、図鑑で見る中国産のツチフキ(写真7) [4]と似ています。だとすると、外来系統ってやつでしょうか。



▲写真6: 九州北部(その1)産 | 繁殖期の雄の背面



▲写真7: 中国産ツチフキ